（書式２）

＜事務局使用欄＞受付番号：　　－

「２０２２年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学教育学部１年　津島悠伸

①学習成果

留学

今回の派遣の前は留学に行きたい気持ちはあったが、自分が海外に行ったことがなかったこともあり、海外で生活していけるのかということに少し不安を感じていた。しかし、今回の派遣を終えて、日本にいるだけではできなかった様々な経験をして、そうした不安が薄まり、留学に行きたいという思いがより強くなった。例えば、留学中は一人でベトナムの街中を歩いたりもしていたので、現地のお店に一人で立ち寄ることも何度もあった。ベトナム語は自分は全く分からないので、英語が通じないお店の人とコミュニケーションをとるのはもちろん難しかった。しかし、身振り手振りで言いたいことを示したり、グーグル翻訳を使ってコミュニケーションをとったりして切り抜けることができた。言語が通じなくても最低限のことは意外と何とかなるということを身をもって経験できた。また、文化や環境が違ってもそれを楽しめる自分がいることに安心したりもした。そうした経験を通して、自信がつき、留学に行きたいという願望が強まった。

大学での学習

派遣を終え、英語をもっと話せるようにするために、英語で学ぶ授業をたくさん取ったり、京大の語学学習をサポートする機会をもっと利用したりしようという気持ちが増した。これは特にハノイ国家大学外国語大学の学生と接して感じたことだが、皆語学的センスがとても高い。英語は普通にペラペラだし、ほかの言語でも少し勉強しただけで日常会話レベルに持っていけているという人が一人ではなく複数人いた。日本ではお互いの語学力の違いを明らかに感じる機会は少なかったので、才能の違いを如実に感じて悔しかったし、刺激をもらえた。これは現地の学生から教えてもらったことだが、ベトナム語は日本語に比べて使う音の数が多い分、ほかの言語の発音をマスターしやすいそうだ。その話を聞いて、日本人であることって不利なんだなと少し悲しくなったと同時に、だからこそ頑張らなくてはいけないと感じた。また、日本にいるときは生活の中で英語を使うことがなかなかなかったが、今回の派遣では街中で英語を使ってコミュニケーションをとる機会が思ったよりあって、そこで自分が思うように言いたいことを英語で伝えられなかったことが何度もあり、これも悔しかった。英語は共通言語なのだなということを実感できた。それらの経験から、英語の学習意欲が高まった。

国際理解への意欲

日本にいたころは、外国人の人とコミュニケーションをとることに対するハードルがそれなりにあったが、今回の派遣を通して国際理解を進めていくことがすごく楽しいと感じられるようになった。日本と文化が違った場合には、考えもしなかった意見を持っている人がいることを知って驚くと同時に知的好奇心が満たされた気持ちになるし、日本人と考え方が同じところがあるとわかったときは、文化が違ってもここは同じ意見なんだな、人間同じ部分はたくさんあるんだなという気持ちになって心が温かくなった。また、言語がコミュニケーションの入り口であるという感覚がついた。ボディランゲージである程度意思疎通ができることが分かったが、それと同時により深い関係になるには言語が必須であるとわかった。様々な言語を話すことができるようになれば、それだけ将来かかわれる人の絶対数が飛躍的に向上する。例えば中国語を話せるようになれば中国語を話す何億人もの人と仲良くなれる可能性が生まれる。そうしたことを考えるようになり、時間のある大学生のうちに語学を頑張ろうという気持ちになった。

②海外での経験

派遣前は日本を出たことがなかったので、海外での経験がどのようなものなのか、自分がどのように感じるのかが全く未知の状態だった。しかし、今回の派遣を終えて海外では日本ではできない経験ができ、異文化交流を通して刺激ももらえるため、今後もいろいろな国へ行って海外経験を積んでいきたいと感じるようになった。

＜事務局使用欄＞受付番号：　　－

③プログラム内容
とても充実した期間を過ごすことができ、よかった。勉強も観光もできて、現地の学生や先生とのかかわりもあり、ただ観光するだけではわからないその国の文化や人間性など深い部分まで感じ取ることができる。特に、同年代の現地の学生と深く仲良くなれるという点がこのプロジェクトの最もいい点だと思う。ご飯を紹介してくれたり観光地に連れて行ってくれたりする中で、文化の違いにびっくりすることもあった一方で、同年代だからこそ国籍関係なく共感できる考え方もたくさんあって、違うところを見つけるだけが異文化交流ではないのだなと思った。ただ、このプログラムの改善すべき部分としては、プログラムの詳細が決まり切っていないまま（もしくは学生に知らされないまま）プログラムが進行していたことが一番に挙げられると思う。最後の発表がどのような形式で行われるのか、発表時間は何分かがわからないまま共同作業が続いていた。ホテルの部屋も相部屋なのかそうでないのかが当日やっと分かった。二つの学校の生徒とどのように予定を合わせていくのかも決められていなかったので、共同作業の時間に誰もベトナム人学生がいないということもあった。現地の学生と仲を深める前に、情報不足によるすれ違いが起きて不満が生じそうだったので、来年以降は情報提供を充実させてほしいなと思った。

④進路への影響
もともと総合商社に就職して海外駐在でどんどん海外に出ていきたいと思っていたので、大きく気持ちが変化したということはないが、海外で働きたいという気持ちがより強くなった。また、ベトナムという国をとても好きになったので、ベトナム駐在を特に希望するようになったかもしれない。